

アナログ再構成後の展開(3)

—EMI DLS529—

1. 始めに

前報(1)のアナログ再構成の経過を踏まえて EMI DLS529 のシステムにより結果を検証します。

2. アナログシステム再構成後の試聴計画

アナログシステム再構成後の試聴は、主として前報(1)で整理したように FAL C90EXW のシステムで行ってきましたが、システムを替えて実施します。

今回は、EMI DLS529 のシステムで行います。

横並びにシステムを替えて試聴を行う場合は、同一の音源を使用することが多いのですが、今回も、対象システムに最も適切に能力を発揮させたい音源を選択することとします。また、それに見合うと思われるアナログ再生システムを選択します。仮想アースへの接続は最適と思われる条件に設定します。

3. アナログシステム再構成後の試聴結果

今回選択した音源とアナログ再生システムは次のとおりです。

ARCHIV 28MA 0020 日本 POLYDOL

バッハ チェンバロ協奏曲

ピノック指揮 English Concert

PHILIPS 25PC-35~36

バッハ ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ

アルトゥール・グルミヨー (ヴァイオリン)

クリスチャン・ジャコッティ (チェンバロ)

以上、LINN LP-12 再生

LONDON SLC-1138

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

LONDON 360R 56009

モーツアルト ディヴェルティメント 17 番

ウイリー・ボスコフスキー指揮ウイーンモーツアルト合奏団

以上、ThorensTD124 再生

harmonia mundi KUX-3248-H

ベーレン・ゲスリン

ミトマニア

以上、Garad401 再生

チェンバロ協奏曲の LINN LP-12 の再生では、バックのバロックアンサンブルの解像度はこれまでになく明瞭で、チェンバロの繊細な質感もしっかりしており、通奏低音も明瞭です。

ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタの LINN LP-12 の再生では、情感に満ちたグルミヨアのヴァイオリンとそれを支えるジャコッティの繊細なチェンバロを表現することはかなり困難な音源ですが、これまでになく豊かな表情を見せてくれています。

三角帽子の ThorensTD124 の再生では、切れ味の良さと音場表現の良さで知られる盤ですが、これまでになく、そういった特徴が再生音に現れています。

ディヴェルティメント 17 番の ThorensTD124 の再生では、テープ再生装置とカッティング装置を直に接続したダイレクトカッティングシステムによって作成された盤ですが、楽器の生々しい質感とステージ感が十全に表現されています。

ミトマニアの Garad401 再生では、男女のボーカルもバックの古楽器アンサンブルも明瞭で、声や古楽器の質感もこれまでになくリアルです。

4. まとめ

LINN LP-12、ThorensTD124、Garad401 各システムに対して実施してきた対策の効果が EMI DLS529 のシステムにおいて確認できました。

以上